PGM 世界ジュニアゴルフ選手権
日本代表選抜大会

2019年2月23日（土）九州・沖縄予選／熊本・ワールドCC
予選大会結果のお知らせ

＜ＰＧＭ世界ジュニアゴルフ選手権日本代表選抜大会　九州・沖縄予選＞
◇２月23日◇熊本・ワールドＣＣ（15－18歳男子6995ヤード、パー72ほかカテゴリー別）
◇出場136人

＜九州・沖縄予選　概況＞
15―18歳の部は、藤原直輝（大阪・興国高1年）が前半1アンダーをマークし、風が出てきた後半もまとめてイーブンパー72で回って、２位上山捷馬（宮崎・日章学園高1年）に２打差をつけて1位で西日本決勝大会（３月30、31日、滋賀・滋賀ＧＣ）に進んだ。同女子は井元咲希（宮崎・日章学園高1年）が３オーバー75で２位に１打差で１位進出。13―14歳の部男子では、15―18歳の部と同じティーマークから回った吉田京介（大分・城北中２年）が、４バーディー、１ボギーの３アンダー69と快スコアをマークして1位で西日本決勝大会へ進んだ。同女子でも外園華蓮（宮崎・日章学園中２年）が上のカテゴリーを上回る１オーバー73で1位通過した。
西日本決勝大会でＩＭＧＡ世界ジュニアゴルフ選手権（７月、米国サンディエゴ）の西日本エリアの日本代表が決まる。

＜九州・沖縄予選　予選結果＞
西日本決勝大会進出者は以下の通り。＊敬称略
▽15－18歳男子
【１位】藤原直輝（大阪・興国高1年）＝72
【２位】上山捷馬（宮崎・日章学園高1年）＝74
【３位】米須清幸（沖縄・久志中２年）＝76
【４位】中野恵將（福岡・嘉穂高１年）＝76
▽同女子
【１位】井元咲希（宮崎・日章学園高1年）＝75
【２位】江川琴実（宮崎・宮崎日大高1年）＝76
【３位】島袋ひの（沖縄・宜野座高２年）＝76
【４位】西川果穂（福岡・城南中３年）＝77
【５位】伊波莉羅（沖縄・宜野座高２年）＝77
【６位】外園莉々華（宮崎・日章学園高1年）＝78
▽13－14歳男子
【１位】吉田京介（大分・城北中２年）＝69
【２位】村松　陸（熊本・武蔵ケ丘中２年）＝72
【３位】上山虎雅（宮崎・日章学園中１年）＝76
【４位】小窪都斗（鹿児島・鹿児島大教育学部付中２年）＝82
【５位】世良　博（福岡・永犬丸中2年）＝82
【６位】市丸貴翔（福岡・飛幡中２年）＝82
【７位】有薗　純（鹿児島・日当山中１年）＝83
▽同女子
【１位】外園華蓮（宮崎・日章学園中２年）＝73
【２位】左　奈々（福岡・原西小６年）＝76
【３位】丸尾羚水（宮崎・赤江中１年）＝77
【４位】菅　楓華（宮崎・日章学園中1年）＝78
【５位】上村麗子（熊本・津奈木中１年）＝80
【６位】石原渚裟（沖縄・久志中２年）＝80
【７位】山内美桜（福岡・次郎丸中２年）＝82

写真
上＝15-18歳男子　藤原直輝
中＝15-18歳女子　井元咲希
下＝13-14歳男子　吉田京介

▽11－12歳男子
【１位】長崎煌心（宮崎・三股西小５年）＝75
【２位】丸尾怜央（宮崎・宮崎南小６年）＝76
【３位】西嶋元風（福岡・リンデンホール小学部５年）＝76
【４位】外岩戸晟士（鹿児島・志布志小５年）＝77
【５位】吉永匡一郎（福岡・江川小５年）＝79
▽同女子
【１位】豊田ヒカル（熊本・築山小５年）＝76
【２位】藤本愛菜（福岡・小竹南小６年）＝78
【３位】中間理桜（福岡・松島小５年）＝79
【４位】冨田有紀（福岡・太宰府南小６年）＝80
【５位】平尾咲希（佐賀・兵庫小６年）＝80
【６位】吉武　凛（大分・春日町小６年）＝82
▽９－10歳男子
【１位】穴井伸直（大分・大分大教育学部付小４年）＝82
【２位】呉屋陽星（沖縄・北美小４年）＝83
【３位】平田兼慎（宮崎・尚学館小３年）＝88
【４位】黒木愛斗（宮崎・平岩小４年）＝91
▽同女子
【１位】藤野蒼來（鹿児島・小山田小３年）＝72
【２位】松下可育（熊本・龍田小４年）＝76
【３位】丸尾海七（宮崎・宮崎南小４年）＝78
【４位】林田万輪（熊本・西合志南小４年）＝80
▽７－８歳男子
【１位】山本昂生（福岡・筑紫東小２年）＝78
【２位】亀田悠生（山口・黒石小２年）＝82
▽同女子
【１位】草場美羽（福岡・馬田小２年）＝94
（注）同スコアの順位は18番からのカウントバックによる

◇15―18歳の部男子◇2月24日◇熊本・ワールドＣＣ（6995ヤード、パー72）
藤原直輝（大阪・興国高1年）がショートパットに苦しみながらもイーブンパー72で回り、トップで西日本決勝大会（３月30、31日、滋賀・滋賀ＧＣ）に進んだ。１番でいいアプローチをしたが「１メートルぐらいを外してしまって」とボギースタート。２番で２メートルを入れて取り戻し、８番パー３（198ヤード）では４番アイアンで50センチにつけ、前半は1アンダーで折り返した。後半、14番で「５～６メートルのバーディーパットを狙いに行ってしまって」とオーバーして返しの80センチを外し、痛恨の３パットでイーブンパーになった。ショートパットは元々得意だったというが「ルール改正でピンを立てたまま打っていたら、感覚が変わってしまって」と、苦手になってしまったという。今は２メートル以内ではピンを抜いて打つようにして、徐々に感覚が戻りつつある。直前まで宮崎で合宿があったため、九州での予選にエントリーした。「今まで予選落ちしてきたので決勝大会に初めて行けます。米国にメチャ行きたい」と、気持ちを込めていた。

◇15-18歳の部女子◇2月23日◇熊本・ワールドＣＣ（6254ヤード、パー72）
井元咲希（宮崎・日章学園高1年）がバーディーなしのゴルフながら、３オーバー75で西日本決勝大会（３月30、31日、滋賀・滋賀ＧＣ）へトップ通過を果たした。「我慢のゴルフでした」というが、アプローチできわどく拾うゴルフではなく「チャンスを外してお先に、が多かったんです。７、8回はあった」と悔やむ。そんな展開の中でも「一球一球、しっかりやろうと思いました。昨日からショットが悪かったので『大丈夫』と言い聞かせながらやりました」と、ストレスがたまる中でも崩れずにプレー出来た。小学校のころから遊びでゴルフをしていたが、本格的にゴルフを始めたのは中学に入ってからで、まだ４年ほど。167センチの長身、自分の持ち味は「ドライバーの飛距離（240ヤード）」という。この大会は２回目の出場で、昨年は予選落ち。「経験が少ないから、もっとたくさん経験をしたい。世界ジュニアに行けたら、自信になると思います」と、ステップアップを目指す。

◇13―14歳の部男子◇2月23日◇熊本・ワールドＣＣ（6995ヤード、パー72）

吉田京介（大分・城北中２年）が３アンダー69で1位となり、西日本決勝大会（３月30、31日、滋賀・滋賀ＧＣ）に進んだ。同じティーマークで回った年齢が上のカテゴリー（15―18歳の部）の１位スコアを上回り「久しぶりに、試合でのナイスプレーでした」と納得。１番で１．５メートルにつけ、２番ではピン手前５メートルを入れる連続バーディーでスタートし「今日はいいなって感じでした」という。９番でも左上１メートルにつけて前半で３つの貯金をつくった。風が強くなった後半も１バーディー、1ボギーのイーブンパーにまとめた。この日はフェアウエーを外したのが２回と、ティーショットが安定していたのがスコアに結び付いた。一昨年のこの大会に11―12歳の部に出場してトップ通過したが、西日本決勝大会で世界ジュニア切符をつかめなかった。２年ぶりの挑戦で「今度は米国に行くぞって感じです。ハイプレッシャーの時の気持ちの持って行き方とか、メンタルトレーニングも始めました」と、世界に行く準備は整ってきている。